

# いのちを まもるものを さがしに いこう

題材のねらい

学校内にある安全施設・設備の役割を考え、自分たちの命を守るための施設等について理解させる。

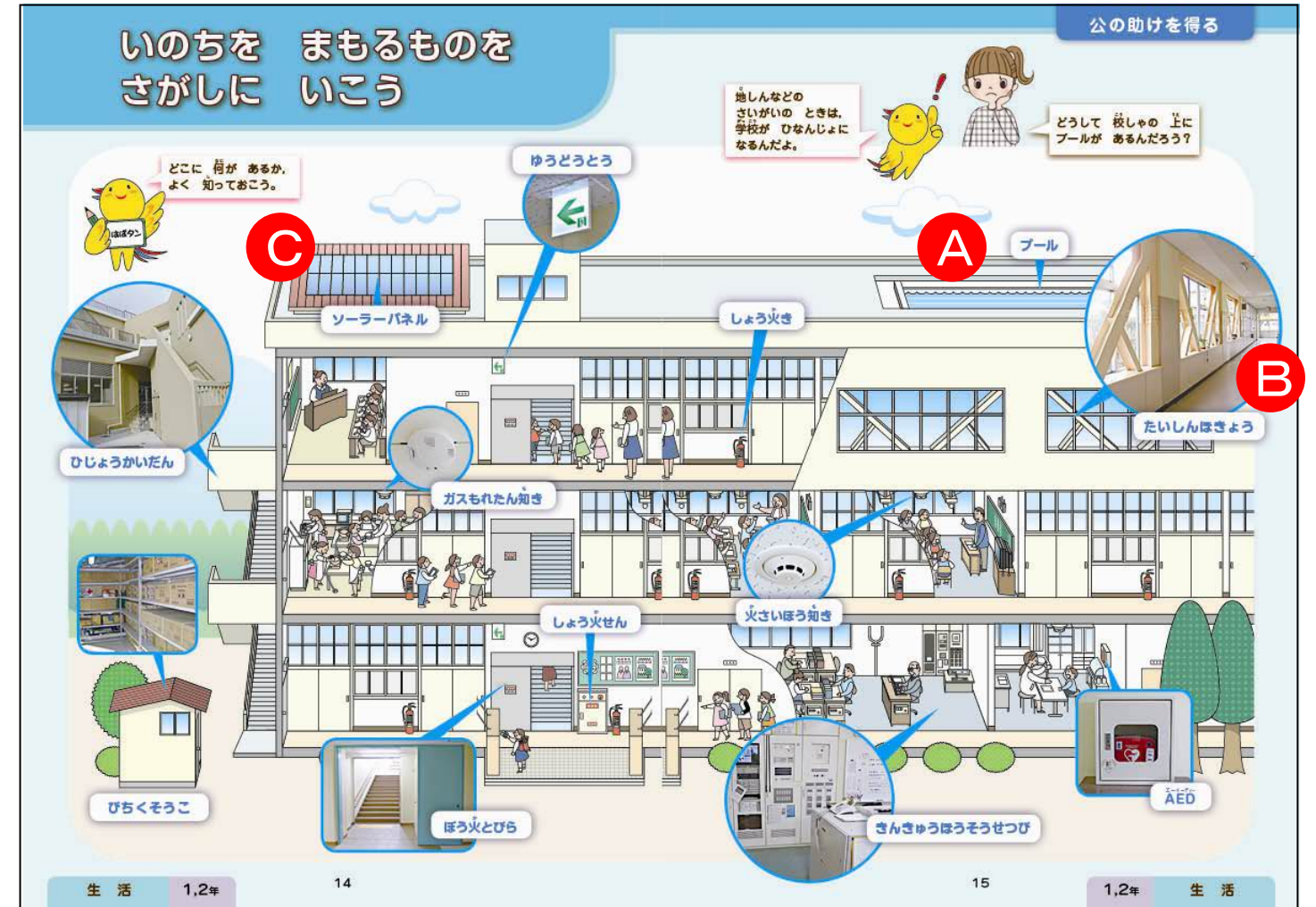
教科等との関連

生活 2 (1)

学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心を持ち、安全な登下校ができるようにする。

展開例

	学習活動	指導上の留意点
導入	学校にはどのような「もの」があるか考え、知っているものを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校たんけん」などで見つけたことをたくさん出させ、学校にはたくさんの施設や設備があることを確認する。</li> <li>出た意見を「勉強のためのもの」と「くらしのためのもの」に分類して板書する。</li> </ul>
展開	学校にある「いのち」を守るものについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「くらしのためのもの」から、安全や命をまもるための施設が多くあることに気づかせる。</li> <li>実際に校内を見て回ることで、子どもたちの気づきを深める。</li> <li>副読本 P. 14～15 の施設・設備で、自分の学校にないものは、必要に応じて補説する。</li> </ul>
まとめ	災害時には、学校が避難所になることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の屋上にプールがある学校があることを紹介し「なぜ屋上にプールがあるのか」を問い、地震等の災害が起こると、学校が避難所になることを説明し、学校の備えの大切さを知らせる。</li> <li>ソーラーパネルも、防災上の工夫として知らせる。</li> </ul>



**A** 阪神・淡路大震災によって被災した学校園では、建て替えの際にプールを屋上型としたところがある。これは、震災時、避難所として使用された学校園のトイレでは水が使えず劣悪な環境となった教訓を受けて、災害時にはトイレ排水や防火用として水を利用できるようになっている。

**B** 平成 23 年 8 月の文部科学省調査によると、全国小中学校の耐震化率は平均 80.3% となっている。兵庫県は 81% 程度。また、平成 14 年度調査では全国平均 44.5% の耐震化率であった。

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/23/08/attach/1310189.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/08/attach/1310189.htm)

**C** 文部科学省では、環境教育の観点からも学校設備へのソーラーパネル導入を促進している。防災の観点からは、ソーラーパネルによる発電により非常時には避難設備の照明のほか、地下水を汲み上げるポンプの動力としても想定されている。



屋根瓦の上にあるソーラーパネル (神戸市立本庄小学校)